東京の観光振興を考える有識者会議
議事録

令和３年 11 月５日（金）17：00～18：00
都庁第一本庁舎７階大会議室

【築田観光部長】

お待たせいたしました。それでは、定刻となりましたので、これより「東京の観光振興を考える有識者会議」を開会いたします。

本日は、御多忙にもかかわらず御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、事務局を務めます東京都産業労働局観光部長の築田でございます。議事に入りますまで、しばらくの間、進行役を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

初めに、本日の委員の皆様の出欠状況について御報告させていただきます。

本日は、委員 15 名中７名の皆様に御出席いただいております。うち３名の皆様にはテレビ会議での御参加をいただいております。出席者につきましては、座席表の配布をもって代えさせていただきます。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。

お手元に議事次第と座席表、資料１の委員名簿、資料３の「PRIME 観光都市・東京　東京都観光産業振興実行プラン素案」をお配りしております。資料２のプラン素案の概要、資料４の素案に対する委員の皆様からの主な意見、参考資料の東京 2020 大会 Tokyo City Information は卓上のタブレット端末やモニターで御覧いただきます。テレビ会議で御参加の方は、事前に事務局より送付しております資料を御覧くださいませ。

この後の議事進行につきましては、本保座長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【本保座長】

本保でございます。本日もよろしくお願いいたします。

今日は、何となくソーシャルディスタンスの典型のような会場になっていますけれども、ぜひ熱心な議論をお願いいたします。

それでは、まず事務局から「PRIME 観光都市・東京　東京都観光産業振興実行プラン～観光産業の復活と持続的な成長に向けて～素案（概要）」について、資料の説明をお願いしたいと思います。

【小林観光振興担当部長】

かしこまりました。

それでは、資料２につきまして御説明申し上げます。

１ページでございます。

第１章には、東京の観光産業振興の意義を記載してございます。

都内の観光産業は、新型コロナウイルス感染症の深刻な影響を受けており、事業者の取組を強力に後押しすることで、持続可能な産業へと進化させる必要がございます。このため、都は新たなプランを策定、推進することによりまして、観光産業を再び成長軌道に乗せ、世界最高の PRIME 観光都市・東京を実現することとしております。

２ページを御覧ください。

第２章には今後の観光産業振興の方向性を記載してございます。

前回までの御議論を踏まえ、本プランの基本理念は、観光産業の復活と「サステナブル・リカ

バリー」の実現としております。観光産業が活力を取り戻すため、コロナ禍前に戻るのではなく、環境の変化に柔軟に対応できる強靭かつ持続可能な産業へと成長することを目指すものでございます。

２の「基本理念の実現に向けた戦略と施策」につきましては、前回の会議で論点として掲げた「観光産業の活性化」「社会変化等に対応した『新しい観光』の浸透」「持続可能な観光の推進」の３つの戦略の下、施策を展開することとしております。

４の「観光産業の復活に向けたロードマップ」につきましては、前回の会議で、プランの計画期間のロードマップを示すべきとの御意見をいただき作成したものでございます。観光需要の回復フェーズを３段階に整理し、外出自粛等の制約がある時期からインバウンド回復まで、それぞれの時期の取組を記載しております。

３ページを御覧ください。

第３章では、今後の施策展開につきまして、戦略ごとに、基本的な考え方、施策体系、現在の検討案を記載してございます。

まず、戦略１「観光産業の活性化」につきましては、３つの施策体系に整理しております。

施策１「観光関連事業者の経営力向上への支援」といたしましては、観光関連事業者向けの支援メニューをワンストップで案内する総合窓口の設置や、観光経営やデジタルなど、専門人材の育成などを検討しております。

施策２「国内観光の活性化と国内外へのプロモーション」といたしましては、国内旅行者を対象とした東京の新たな魅力の発信や、「Tokyo Tokyo」アイコンの活用などを検討しております。

施策３「あらゆる旅行者が快適に滞在できる受入環境の整備」といたしましては、アクセシブルツーリズムのハード、ソフト両面での推進などを検討しております。

４ページを御覧ください。

戦略２「社会変化等に対応した『新しい観光』の浸透」につきましては、２つの施策体系に整理しております。

施策４「デジタル技術を活用した観光の推進」といたしましては、事業者の DX 導入を促進するほか、観光統計データを視覚化したダッシュボードの構築によるマーケティング活動への支援などを検討しております。

施策５「東京ならではの観光資源の磨き上げと新たな観光スタイルの浸透」といたしましては、周辺の事業者等と連携して、旅行商品を造成する取組への支援や、多摩島嶼地域における新たな観光資源の開発や情報発信などを検討しております。

なお、島嶼地域の受入環境につきましては、都といたしましても、自治体による上質な宿泊施設の誘致や整備等の取組への支援を行っているところでございます。

５ページを御覧ください。

戦略３「持続可能な観光の推進」につきましては、２つの施策体系に整理しております。

施策６「地域・住民に寄り添った観光地域経営の推進」といたしましては、都民の観光への理解を促進するとともに、地域における観光の担い手確保・育成や、事業者や地域の危機管理対応への支援、SDGs の達成に向けたスタディーツアーを普及させるための実態調査などを検討して

おります。

施策７「観光産業の持続的な成長に向けた基盤の強化」といたしましては、旅行者の消費拡大に向けたコンテンツの充実や富裕層向けガイドの育成、観光協会等の自主的な取組や連携の強化などを検討しております。

６ページを御覧ください。

MICE 誘致につきましては、東京のプレゼンスの向上につながるため、３つの戦略に基づいて施策を展開することとしております。

国際競争力の強化では、安全安心な環境整備の支援やPR、DXの推進では、次世代型MICEのガイドライン策定や人材育成、持続可能なMICEの推進では、SDGsに配慮した開催支援などを検討しております。

７ページを御覧ください。

第４章には、プランの実現に向けた指標型観光地域経営の推進につきまして記載しております。

都民、経済、文化、環境の４分野につきまして、2030 年に向けた将来像と政策目標を掲げております。また、政策目標の達成に向けた分野ごとの管理指標を右側に掲載しております。管理指標は定期的に評価することにより、今後新たな施策等に反映していくことを検討しております。

８ページを御覧ください。

第５章には、東京2020大会に向けた受入環境整備の取組の成果を記載してございます。

説明は省略いたしますが、東京 2020 大会は、コロナ禍により無観客での開催となりましたが、選手村やメインプレスセンター等にCity Informationを設置いたしました。

期間中は延べ約１万 7000 人に御来場いただき、海外の選手やメディアの方々に対して、将来の訪都等を促すため、東京や日本各地の観光情報を発信いたしました。

こうした取組の成果を観光産業の復活の礎とし、都市のレガシーとして発展させ、あらゆる人々を魅了する観光都市へと進化させていくこととしております。

事務局からの説明は以上でございます。

【本保座長】

どうも御説明、ありがとうございました。

今日の資料で、東京 2020 大会のレガシーについて触れられているところがありましたけれども、本日は根木委員に御出席いただいておりまして、パラリンピック、まず大成功で本当におめでとうございます。また、御苦労さまでございました。つきましては、少し経験を踏まえてお話しいただければありがたいと思いますが、いかがでしょうか。

【根木委員】

皆様、お疲れさまです。

今回のテーマ自体でどこまでしゃべったらいいか分からないのですけれども、僕も関わらせていただいていたので、実際に選手村に入ったり、大会の関係もいろいろやっていたので、ちょっとコメントのお時間をいただきます。

先ほど事務局の方から御説明があったように、Tokyo City Information Center だったり、選手村のビレッジプラザの中で設けられています。選手村の中は選手たちがくつろいで、競技に向

かうための本当に大切な重要な場所なので、一般に公開されることもほぼほぼなくて、実は画像もいっぱい撮ってきているのですけれども、それを出すのは、一応全体的にクローズしているので、本当は見せたい画像もいっぱいあるのですけれども、今回これは組織委員会からちゃんと許可を取って出していただいているものです。

僕のまず感想で、この選手たちが、今回コロナ禍の中で、本来なら日本に入って、事前キャンプをみんなでしながら、そこの中で地域の方と交流があったりとか、もちろん終わった後に観光があったり、そういうのを大会の中の楽しみの大きい一つであったし、選手以外も本当に多くの方々が来る予定だったのですけれども、それがなかなかできなかったところで、では、選手たちは東京をどのように来て感じられているかというところでいくと、思ったのが、まず、今回 Information Center の中でパンフレットが用意されていて、これを選手たちが本当に楽しそうに取って、見て、スタッフの方もたくさん来ていただいていたので、一生懸命日本のよさ、いろいろな観光地のところ、東京だけではなくて、御説明したところが印象的でした。

僕も必ず選手村に行ったときには Information Center に寄って、スタッフの方にお話を聞かせていただいたり、あと、そこでいろいろと過ごされている選手たちに、僕はあまり英語は得意ではないのですけれども、いろいろ聞いていると、正直観光ができなかったのは残念だということも言われました。でも、日本のよさというものをすごく楽しみにされていて、このパンフレットとかを見て、次回は、大会だったらもちろん来るけれども、日本にゆっくりと来たいなということを皆さんが言っておられました。

その中の数も、１万 7000 人が来られているのです。これはすごい数だと思うのです。ビレッジプラザというところは規模はちょっと分かりにくいと思うのですが、そんなに広くないのです。この Information Center の大きさもそんなに大きくはないのですけれども、絶えず人がずっとこう入れ替わりおられたということは、言いにくいですが、ほかの場所ではそんなには入っていないところもあるのですけれども、とても皆さんが興味を持たれていたということがはっきりとしたかなと思います。

あとは、これも結局観光にすごく大きく関係するところだと思うのですけれども、選手たちも今回の大会の感想とか、選手村に入るまでの短い時間の中でも、どういう印象があるかと言ったら、もちろん食事がおいしいとか、実は日本全国の食事を取り寄せたコーナーもあったのです。もちろん世界中のお食事を用意している、これは日本が用意しているわけで、そこの食事がおいしかったというのもあったし、あとは人ですよね。ボランティアとか関係者全ての人たちが本当に笑顔で対応をしていたことが、選手たちにとってものすごく、競技に向けても勇気づけにもなったし、日本の魅力を最大限引き出しているかなと。

もちろん食であったり観光地であったりとかと、いろいろなものがあるけれども、現実的に滞在の中で、バブルの状況で見せられていないのです。なのにあれだけ本当に楽しんでいるし、喜んでもらえているというものは、日本の対応という、ボランティアさんだけではなくて全ての対応が魅力的なのが東京、日本であるということが、この状況の中でしっかり示せたのかなというのは本当に思いました。

あとは、ちょっと紹介がずれますけれども、ボランティアさんがどれだけすごかったかという

のは、特に東京在住のボランティアさんが多かったと思うのです。そもそも観光ボランティアさんだったり、東京にはシティキャストさん、そういう活動の人たちが多く今回も活躍されたのかなと思うので、ちょっと紹介から話がそれますけれども、今後、恐らく海外からとか国内の観光客の方が来られたときに、皆さんがその力を発揮するのかなと思うので、引き続き、ボランティアさんとか人との交流というものは最も強いものだなというのを改めて思いました。

あと、大会を皆さんが運営していただいて、選手も、僕は選手ではないのですけれども、元選手としても、これで発揮できたというのは皆さんの応援の力、人の力なのかなと思いました。

まとまりがなくてすみません。以上です。

【本保座長】

どうもありがとうございました。

また皆様から御質問があれば、後でお受けしたいと思いますが、１つ確認的にお聞きしますけれども、非常に限られた空間の中での日本への接触になったわけですけれども、その中でヒューマンタッチが大変大事だったという、このように受け止めてよろしいでしょうか。

【根木委員】

正直、物すごくストレスだと思うのです。来て、移動ができなくて、選手たちは海外から日本に入ってくるまでにも隔離があったり、いろいろなものがあった状況の中で来ていて、競技もあるわけではないですか。不透明のところの開催、本当にできるかどうかというのが分からない状況で皆さんがいろいろな国から来ているのです。

でも、その中で、選手たちが、この状況の中で、安心できる大会を開催してくれた。みんな本当に安心しているのです。そこはやはり、ぎりぎりまで関係者の人たちがしっかりと説明できる中で、この状況の中で、無理に大会をやったわけではなくて、ちゃんと大会をできる用意をしたということが、みんなにちゃんと説明もできたというところだと思います。

だからこそ、もちろん大会なのでアクセシブルの部分とか、そんなものも完璧に用意されていたと思いますけれども、より言われるように、こういう状況だからこそ、人との関係というものがより大切なのかなというものも分かったと思います。

あとは、すみません。ちょっと長くなってしまうのですけれども、日本で開催されたことで、開会式、閉会式のものも、皆さんがよく「パラリンピックよかったよね」と言われるところで、もともと大会のテーマである多様性と調和というもの、これはオリンピックを通してだったのですけれども、どんどん、この大会のコンセプトの中の多様というもの自体のすばらしさ、それを認める社会というものが大きく日本で変わってきたというのは、これはいきなり起こるものではなくて、このオリンピック・パラリンピックを通じて皆さんが、いろいろな部署で、もちろんこの観光もそうだし、いろいろなところで、競技もそうだし、あらゆる人たちに本当に安心して楽しんでもらえるというものを考えてつくっていってきていたから、ちょうどその大会というのが最もピークで、かつ、後半のパラリンピックの開会式とか閉会式で、閉会式だったら違いが輝く世界ですよね。開会式は、少女が出てきて翼がある、飛び立つという、こういう状況の中で、皆さんが本当の意味で多様な、認めて、みんなが楽しんで安心して過ごせるものを大会として伝えていたから、これからより皆さんの意識が変わったので、いろいろな部分ですごく楽しみかなと

思います。

【本保座長】

どうもありがとうございます。当事者から貴重な御証言をいただけて大変よかったかと思います。

多様性を含めた様々なレガシーがあったという御評価だったと思うのですが、そのことが十分伝わっていないきらいがありますので、引き続きスポークスマンとして務めていただくことを期待したいと思います。

【根木委員】

今日はいいことばかりで終わらせていただいたのですけれども、でも、ここからが、どう行動として移っていくかというのはすごく重要なので、分かったのに、このままにしておいておくと、多分意識が下がっていくので、だからこそ実際にどういう取組を現実的にやっていくかというのは熱く議論していかないと駄目なので、これからが勝負だとも思っています。

【本保座長】

ありがとうございます。

それは、今の根木さんの御発言、それから事務局の資料説明を踏まえて、御意見を賜りたいと思うのですが、その前に、本日欠席の委員の皆さんからコメントを頂戴していると聞いておりますので、事務局からその紹介をお願いしたいと思います。

【小林観光振興担当部長】

かしこまりました。

それでは、資料４を御覧いただけるでしょうか。

本日御欠席されている委員の皆様からいただいた、素案に対する御意見につきまして、御紹介させていただきます。

１ページ目でございます。

アレックス・カー委員からは、全体を通しまして、今後取り組むべき観光施策が網羅された意欲的な内容との評価をいただきました。

田川委員からは、戦略３に関しまして、子供たちが学校で地域について学ぶ機会を与える取組など、シビックプライド醸成に向けた施策が盛り込まれていることへの評価をいただきました。

一方、第４章につきましては、区市町村や観光関連団体の役割を明確に位置づけるべきとの御指摘をいただきました。この点につきましては、最終案に盛り込めるよう検討してまいります。

伊達委員からは、全体を通しまして、これまでに議論した内容が反映されていることを評価いただきました。

一方、第４章につきましては、政策目標と施策の対応関係が分かりづらいため、施策のKPIや進捗の評価方法を明記すべきとの御指摘をいただきました。この点につきましては、最終案に盛り込めるよう検討してまいります。

田中委員からは、戦略１で「Tokyo Tokyo」のアイコンなどを活用した国内外への東京の魅力発信を検討していることへの御賛同をいただきました。

また、プラン全体を通しまして、読んだ人が自分のアイデアを付加することで、予定していな

かった成果が出てくることに期待するとの評価をいただきました。

玉井委員からは、戦略２で、宿泊施設を核とした地域の魅力向上を検討していることに関しまして、今回盛り込まれているような宿泊施設が地域の中心となり、周辺を巻き込んでいける施策を推進することにより、観光を社会共通の資本とすることが必要との御意見をいただきました。

また、戦略３に関しまして、観光への理解を促進するためには、観光客を受け入れる地域住民に対するインナーブランディングが重要との御意見をいただきました。

２ページ目でございます。

星野委員からは、コロナ禍からのリカバリーにおいては、コロナ禍前の課題を解決し、より先鋭的な観光産業を目指すべきとの御指摘をいただきました。

具体的には、非常時にも強い観光産業の構築に向け、インバウンド、関東圏以外の国内、関東圏という３つの市場を意識した戦略的なアプローチがリスク分散の上でも重要とのことでございました。

また、ホテルの環境対策には様々なものがあり、10 年後の世界のスタンダードを先取りした取組を進めるとよいとのことでございました。御指摘につきましては、最終案に盛り込めるよう検討してまいります。

牧野委員からは、戦略２で検討しております観光統計データのダッシュボード化を、よい取組と評価いただくとともに、活用方法を事業者や観光協会に紹介するとより効果的であるとの御示唆をいただきました。

また、同じく戦略２に関しまして、旅行者意識の変化を踏まえ、多摩・島嶼地域については、その魅力とともに、安全安心などについても情報発信を強化していくとよいとの御示唆をいただきました。

矢ケ崎委員からは、第４章に掲げた指標に関しまして、観光の政策目標に観光分野がどのように貢献するかを明確にするのは現段階では難しい、まずは都全体の目標を観光も一緒に目指すことにして、次のステップで明確な目標が設定できるようにするとよいとの御意見をいただきました。

また、MICE に関しましては、事業者も厳しい状況にあるため、インバウンドが回復しない中、安全安心な MICE 開催への支援に取り組むことは評価できるとのことでございました。

委員の皆様からいただいた御意見の紹介は以上でございます。

【本保座長】

どうもありがとうございました。

それでは、会場の委員の皆さんから御意見を頂戴していきたいと思いますが、よろしければ、リアルで御出席の方から御意見をいただいて、続いてオンラインで参加の方にということで進めたいと思いますので、よろしくお願いします。

時間の関係で、１人５分以内での御発言をお願いしたいと思います。マイク等の操作についてはいつものとおりでありますし、オンラインの方の挙手についても同じでありますので、よろしくお願いします。

それでは、どなたからでも。

【アトキンソン委員】
特にないです。
【本保座長】
では、滝委員、よろしいですか。
【滝委員】
もうほかの方々のお話で大体網羅されているので。
【本保座長】
分かりました。
アトキンソンさんが特に意見がないということは、これで満足されていると思っていいのでしょうか。これは珍しいことだな。奇跡。
では、根木さん、続けて何か御発言はございますか。もう十分に。
【根木委員】
欠席されている方の発表にもあるように、本当に網羅されていて、皆さん、今まで議論したことがちゃんと成果として出ているのかなと思いました。
【本保座長】
ありがとうございます。
改めて、滝さん、よろしいですか。
【滝委員】
先ほどお話を聞いていたことも含めてですが、今回のオリパラで国民の意識というのは大きく変わったという実感があります。そういう意味では、これをきっかけに、特に東京の MICE などもそうなのですけれども、安心安全と書いてありますが、世界に先駆けてあらゆるサービス、ホスピタリティーがあるということを強化、強調していくことがプラス効果が大きいのではないかと思います。
【本保座長】
どうもありがとうございます。
私もこちらにいる委員の一人としてちょっと発言をさせていただきます。オリンピックのレガシーについては、今、滝委員からもしっかり捉えておくべきだという御発言があったかと思いますが、先ほどの根木委員の御発言も含めて、報告書の中には、記録として少し豊かに書き込んでいただいたらどうかなと思います。同時に、やろうとしていて実現できなかったこと、あるいは逆に負の面で見えてきたこと、こういうことも併せて書いておかないとバランスが取れないと思いますので、そういう観点から書き方を工夫していただけるとありがたいなと思います。
それから、２つ目は全体の構成に関してなのですが、３つの基本方針の中に「持続可能な観光」というのが入ってきておりますけれども、いわゆる取組の一つとしてこういう整理をされることは当然かと思うのですが、他方で、思想とか哲学という観点からいえば、持続可能な観光への取組というのは、基本的理念、基本思想だと思うのです。観光への取組を進める上で持続可能性を実現するという基本思想があって、その中で様々な施策が展開されていくことになり、今回については、特に持続可能な取組を強化するので一つ柱を立てたんだという整理ではなければい

けないと思っています。観光への取組、一部が持続可能性ということはあり得ないということで御認識いただければありがたいなと思うところであります。

以上を申し上げて、オンラインの皆様に御意見を頂戴してまいりたいと思います。お願いいたします。

では、石井さん、お願いいたします。

【石井委員】

皆さん、こんにちは。今日もそちらに伺えなくて申し訳ありませんが、こうしてオンラインで参加させていただくことができるようになって、パリから東京の生の情報を伺えるというのは逆にメリットだと思っております。

私、ずっとフランスにおりますが、今回の概要、本当にいろいろと効率よくまとめていただいたと思います。今までの意見も反映していただいたと思って感謝しております。

ちょっと感想と近況報告のような形になってしまいますけれども、幾つか、これを拝読して思ったことなどを挙げさせていただきたいと思います。

まず、10 月の初めにパリで一番大きな現代アートのイベント、ニュイ・ブランシュというものにアーティストして参加させていただきました。非常に作品は好評いただいて、雨の中、たくさんの方に御来場いただいたのですけれども、この会場で、実は東京の観光の PR というのを一緒にさせていただく機会をいただきました。アートを見にいらっしゃるお客様なので、普通のパリの市民の方が主なのですけれども、東京のカウンターのところにたくさん人が集まって、非常に反響と熱気を感じまして、東京人としては非常に嬉しい状況を目の当たりにすることができました。

そこで「Tokyo Tokyo」のロゴの入ったグッズをいろいろと配布させていただいたり、パンフレットを配付させていただいたりして、皆さん、とても熱心にパンフレットを持って帰ったりしておられました。

今日いただいた資料の中に、東京の特産品開発という項目がございましたけれども、配っているものは割と皆さん分かりやすいボールペンだとかメモ帳という感じのものなので、これはどこの国のどこの町でも、どこの会社でも配っているグッズに割と近しいものになってしまうので、もう少し東京らしいグッズというものがあってもいいのかなというのは、そのときにちょっと感じました。

それから、いただいた資料の中の 41 ページでしたか、長いほうの資料です。マッピングの活用というようなことが具体的に書いてございました。夜間や早朝のイベントを促進するというのは非常にいいやり方だと思うのですけれども、マッピングというものに固執してしまうことがちょっと心配かなという気がいたしました。

マッピングを世界中で、方々でやっていることですので「またマッピングか」みたいなようにすぐなってしまう手法だと思うのです。なので、逆にそういうものに固定しないで、光やアートを使った表現とかというようにもう少し汎用性のある書き方にされたほうが、今後 2030 年まで指標にするものを今考えているわけですので、限定性が逆にないほうが可能性が広がるのではないかと思いますし、そういう新しい表現ができるというのは日本のテクノロジーやアートの場所

を提供するという意味でも、世界中からデリゲーションが見にくるような画期的な見本になるようなイベントを、これから開発していく土壌をつくるという意味でも限定性はあまりここではないほうがいいのかなと思いました。

それから、ちなみにマッピングは大体音がつきますので、騒音公害みたいなことにも配慮しなければいけないという制約があることを付け足しさせていただきます。

それから、先ほどから SDGs、環境の話が出ております。それから、デジタル化というのがあります。実は昨日、日本と EU のビジネスラウンドテーブルという大きな会議がブリュッセルでありまして、そこに委員として参加してまいりました。そこで、今後、EU、それから日本の政府に関して、都市のグリーン化、それからデジタル化を推進していこうということが提言書に盛り込まれました。もちろん現在進行中の COP との関連性もありますけれども、都市を開発していく中に、ただデベロップメントとして大きく、どんどん広げていくというのではなくて、環境やデジタルという言葉が組み込まれるようになったというのは非常に大きな布石だと思います。

そういう意味で、今回拝見した観光促進の実行プランは、イベントとか割とソフト的に起爆剤にしていこうというものがたくさん盛り込まれているのですけれども、やはり東京という都市に来るわけですから、もう少しインフラの整備という観点からもアプローチがあってもいいかなというような気もいたしました。

インフラとして、例えば、照明の街灯は LED 化することになって SDGs 化になりますし、そこにデジタルインフラを組み込むようなことができる。それから、先ほどからもお話のありました、安心安全という意味でも、夜間の安心というのはやはり照明でつくられますので、インフラに関する言及もしていただけたらいいのではないかと思いました。

長くなって失礼しました。

【本保座長】

石井さん、どうもありがとうございました。

マッピング一本打法的になってはいけないという御指摘はかねてからいただいておりましたので、その点は多分事務局もしっかり意識して、最終報告書に盛り込んでくれると思っております。

それから、せっかく東京都のイベントをやっていただいたけれども、ところがお土産が、フランス語で言うとセ・パマル、ありふれているということで、特色がないというのはよく分かることで、知恵の問題だと思うので、そういう細かいことにも頑張っていただきたいと思うところであります。

SDGs についてもいろいろな取組をされていますけれども、ちょうど今グラスゴーで総理が行かれて演説もされていますけれども、COP26 が開催され、観光関係でも、より持続可能でゼロ・エミッションに向けた取組をするように、コミットしろということを UNWTO が訴えかけをしております。

たしかニセコ町が第１号でコミットするという意思決定したように聞いているのですが、こういうことへの対応も大きな主体でありますので、東京都も大事かなと私も思っております。ありがとうございます。

続いて、小巻さん、よろしゅうございますか。

【小巻委員】

ありがとうございます。

先ほど、東京 2020 の振り返りを聞かせていただきまして、本当にありがとうございます。改めて本当にこういった状況の中で、東京オリンピック・パラリンピックを成し遂げられた関係者の皆様の苦労に心から敬意を表したいと思いました。

先ほど、現場を御存じの方ならではのフィードバックを聞かせていただいたのですけれども、何となく過ぎてしまって、シビックプライドの醸成という観点からも、やはり振り返りをきちんとしておいて、その情報を共有しておくべきだなというのは非常に感じておりましたので、何らかの仕組みが、時間がすぐにたってしまうのですけれども振り返りでよかった点、また、反省すべき点というのを明らかにする必要があるだろうなと思いました。

いただいたこの資料の中に、パンフレットの例であったり来場者の声というものがありましたけれども、東京都としてよかった点というのは自画自賛的になってしまうかと思うのですけれども、ネットの書き込みなどを見ましても、よかった点はたくさん書き込まれていると思うのです。観光の視点からも、こういったパンフレットの例であったり、ユニバーサルデザインに基づいて工夫なさったことだったり、観光資源の一つとして、ボランティアの方々、人というのはすごく大きな資源だと感じましたので、そういったところの私たちの資源をもう一度改めて見直す意味でも、東京オリンピック・パラリンピックの振り返りを何らかの形で、もうちょっと分かりやすく発信するということは、一つ、今後の観光にとっても大きな財産になるのではないかなと思います。

ネガティブなというか、反省すべきポイントにおいても、それを明らかにすることで、次への一歩に対して、企業であったり、学校であったり、我々都民が取り組む何かヒントがそこにあるのだろうと思いますので、それは、あれだけのパワーをかけて成し遂げた東京オリンピック・パラリンピックですので、分かりやすい視点というのはやはり必要かなと思いました。すみません。感想になってしまいますけれども。

それから、いただきました素案についてなのですけれども、本当にたくさんのことが網羅されているなと思いました。例えば、簡単に感想と意見を申し上げさせていただきますと、施策１のところで、観光人材育成というところがありますけれども、恐らくいろいろなところが、企業だったり自治体だったり NPO がこういったことというのはもう既に取り組んでいるところは多々あると思うのですけれど、この人材を育成するというプロセスは本当に大切で、観光資源の見直しになったり、育成する側もされる側も、ともに非常に意識が向上するという、それは私どもサンリオエンターテイメントでもそこは感じているところもございますので、個々にやっていることを、コレクティブインパクトを大きくしていくという意味でも、何か情報共有をするようなプラットフォームのようなものがあるといいのかなと思いました。

それから、施策２の海外プロモーションの展開のところの、発信ということがありますけれども、やはりこの発信というのは非常に重要なことですので、「Tokyo Tokyo」のアイコンを活用するといったようなアイデアももちろんとてもいいアイデアだと思いますけれども、そこももっと多様な主体が、これも１つの企業だったり１つの自治体でできることはどうしても限られてし

まいますので、アクティブにそれぞれが協創していくということが、ここでも必要なのだろうなと思いますので、何らかの公な横串の仕組みがあるといいなと思いました。

それから、施策４のところのデジタル技術のところです。こちらも、先ほど石井さんもおっしゃっていましたけれども、そういった具体的なLEDによっての策を打っていくということで、安心安全というのももちろんすばらしく、本当にas soon as possibleでやっていけるといいなと思いますし、今、エンターテイメント業界だと、このデジタルというのは必要不可欠なコンテンツとなっていて、オンラインでのエンターテイメントの配信もそうですし、場所そのものをバーチャル化していくということも非常に進んでおります。

私どももデジタルピューロランドということで、実際に工事をしたわけではないのですけれども、デジタル上でピューロランドを拡張して、地下５階までということで、音楽フェスを今度12 月に行うのですけれども、そういったことを企画をして実施をしているエンターテイメント業界も、そこも一社でできることというのは非常に限られてしまいますので、そういったものを通して、横串を刺して、東京都の魅力を伝えていくといったような、何かが具体化していくと、より発信力も大きいですし、デジタル都市というようなイメージを皆さんにお伝えすることもできるかなと思いました。

あとは、各企業の責任として、これは都ではなくてコンテンツの充実を図っていかなくてはいけないなということも改めて感じました。

そして、施策６の SDGs 達成の貢献に向けた取組というところですけれども、達成の貢献の手前に、やはり理解を深めていくということはとても大切だと思っております。こちらもテーマパークのほうでも SDGs に向けての様々なイベントを実施し、また、これからもしていく予定なのですけれど、イベントをやってみると、実際に体を動かしたり参加することによって理解が深まるということを非常に感じておりますので、こういったイベント例のツールの提供だったり、そういった情報を交換できるようなものがあるといいのかなと思いました。情報は発信していますし、キャッチしてもらいたいなと思っていますけれども、何かそこに公の SDGs の理解ということにおいて、何かプラットフォームのようなものがあるといいのかなと感じました。

そして、全体的、持続可能ということは、サステナブルは、本当に耳にたこができるぐらい、あちらでも全てにおいて持続可能ということは聞かれるようになってきました。もちろん非常に大切な概念だと思っています。そこにもう一つ再生というリジェネレーションということも、最近同時に言われるようになってきていて、私もこれもはっとさせられる部分があるのですけれど、リジェネレーション、再生ということ、観光の文脈で言いますと、観光資源の再生だったり掘り起こしということにもなるのかなと思います。特産物という言葉も出てきていますけれども、やはりいま一度、再生という視点からも観光資源の見直しを図って、再生ということに向けてもみんなで考えていくというということも必要だなと思いました。

ちょっとばらけておりますけれども、以上になります。よろしくお願いいたします。

【本保座長】

小巻さん、ありがとうございました。

シビックプライド形成は大きな柱になっていますが、その最初の大きな一歩が東京 2020 のレ

ガシーだという指摘は本当にもっともだなと思いました。ありがとうございます。

それから、人材育成あるいは SDGs 理解の進化について、コレクティブインパクトという言葉を使われていましたが、こういうものが発揮されるような仕組みづくりがあると、より大きな効果が期待できるという御指摘は大変もっともだと思います。

海外への発信についても、いろいろな主体の取組を巻き込んで、しっかり総合力を発揮するということで、これもぜひ事務局でしっかり捉えていただきたいと思います。

それから、先ほどの石井さんの御発言で言及を忘れましたけれども、実はハードの整備もいろいろな面で東京都は取組をよくやられているのですが、書き方のバランスという問題で書けていないところもありますので、必要な範囲できちんとハードの取組、今回は例えばアクセシビリティーの向上については書いていただいていますけれども、ちょっと考えていただければありがたいと思います。

それでは、最後になりますが、マリさん、いかがでしょうか。

【クリスティーヌ委員】

今、新幹線に乗っているところで申し訳ないです。

今日は直島と豊島に行って、戻ってくる途中なのですけれども、非常にすばらしい時間を過ごせたのは、コロナに関して皆さん熱心にきちんとした形で対応してこられているからだ思います。外国の方々も結構歩いていたりしていまして、日本人よりも日本人に対して気づかいをしたり、あと、お店やいろいろなショッピングに対しても、入るときに体温を測ったり、手をきちんとアルコールで消毒し、そして、食事をするまではずっとマスクしたまま、むしろ彼らのほうが日本に対するとても大きなリスペクトを持って行動してくれているんだなということに、私も大変感銘しました。

外国の方々は日本に入りたいという気持ちがおありで、東京にも来たいと思っている人たちにもっと日本の規則のようなことをアナウンスしていくといいと思います。外国の方は、ルールなどを知っていれば、きちんと守ってくれますし、わざわざ日本まで、遠いところまで来ようと思っている人たちは、そういう気持ちが非常にきちんとしているのではないかなという感じをいたしました。

先ほどレガシーの話の中で、障害を持たれている方々が、日本で今回のオリンピックの間でも非常に喜んでくださったことは、私は直接声を聞いていまして、先ほど話を聞きながら本当にうなずくばかりだったのです。

幾つかパラリンピック競技も行かせていただいたのですけれども、そのときにいろいろな方々のお話を伺っている中で、ちょっと気になったことが幾つかあったのは、障害を持っている方々に対して、とても日本の方は彼らに対するケアというものをちゃんとされているわけです。ただし、ケアされ過ぎてしまうことがある。自分たちは自立した人間であると。

誰かに付き添われて日本に来ているのではなくて、自分たちの自力で来ているのに、自分たちが滞在したホテルは自分たちが自立ができるような部屋づくりになっていなかったと。車椅子は入る、だけれども、ケアギバーがくっついている形での部屋になっているので、例えば自分の腕の力で自分たちを持ち上げて、お風呂に入りたくても、そういうバーがない。付き添ってくれる

方のために何か作られているような状況なので、ケアする人にとってとても親切ではあるけれども、自分で自立して部屋を使いたい方にはちょっと不便だったと言われたのです。

なるほどと。なぜかというと、障害を持っている方は、誰かが必ずつき添っているという、ある意味ではアンコンシャス・バイアスを持っているので、そういう認識から物の発想が始まると、そういう形になるのだろうと思ったので、ぜひもう少しそちらのところを追求していただけると、これからユニバーサルツーリズムも含めて、日本にとっては大きなマーケットだと思います。

お話しをした方は、とにかくオリンピックが終わったらば、また自分は家族を連れて日本に訪れたいとおっしゃっていますので、あまり早くに、急いでああしようというとことではなく、少し様子見をしながら東京都も、そのときが来るときのためにインフラを整えてくれたらいいのではないかなという感じがしました。

話があちこち飛んでしまって、すみません。

【本保座長】

どうもありがとうございました。

直島、豊島、うらやましいです。

【クリスティーヌ委員】

よかったですよ。お天気もよかったですし。

【本保座長】

それから、ちょうどインバウンドの再開を待っている時期に、大変勇気づけられるエンカレッジングなお話をいただきまして、ありがとうございます。

障害者のケアについて少し高度なお話があったように思いますが、恐らくステレオタイプで物事を考えて、狭い範囲で対応しているのではないかという御指摘だったかと思いますし、それに応えて、あるいは反省をしてハードもしっかりやるべきだとおっしゃったと思いますが、根木さん、何かございますか。

【根木委員】

今の話、僕ら障害のあるメンバーたちと話をするときに、例えばバリアフリー対応ということで、流れとして、ホテルも今はバリアフリーの部屋がどんどん増えていったのです。ものすごく広めにいろいろなものがとられているから、本当に重度の障害者の人たちが使いやすい。ああいうものは絶対必要だと僕は思うのですけれども、それがたくさん要るかといったらそんなことではなくて、僕とかアクティブにある程度動くユーザーになると、段差がなかったらいいだけぐらいの話だったりするのです。それであると、御高齢の方とか小さいお子様とかだったら使いやすかったり、それから本当にみんなのニーズが多様なのです。なので、障害者のためにもこれを作らないと。でも、１個だけ作るのだったら全然。ほかが段差だったら使いにくいですよね。その辺のもうちょっと広い考え方ができるようになるというのは、それは、そもそもはバリアフリーのものさえなかったので、段階的にはやはり進んでいっていると思うので、次のステージとして、本当に誰もが使える、いろいろな人たちがいるんだという中で、考え方が多様化していくということが、次のステージなのかなと思います。

【本保座長】
どうもありがとうございます。
多少、観光の域を超えたところの話だと思いますが、今日はそういう意味では産業労働局長も御参加されていますので、少しその枠を超えてメッセージとして伝わっていけばありがたいなと思います。
【根木委員】
でも、まさしくホテルの部屋とか、観光のルートだったりとかというものも、要は誰もが楽しめるという視点さえしっかり外れなかったら、多分そういう発想は。何かみんながわくわくできるようなものになっていくというのは、結構大きいことであるのかなと思いますよね。
【本保座長】
どうもありがとうございます。
「誰もが」の中には、お年寄りも入るということですよね。ありがとうございます。
一通り御意見を頂戴いたしまして、時間も終わりが近づいてきましたが、どうしても最後に一言を御発言したいという方がいらっしゃいましたらお受けしますが、よろしゅうございますか。
では、よろしければ、ここで皆様の御意見をいただきまして、それぞれ貴重な御意見、アドバイスでありましたので、最終報告に可能な限りこれを反映していただくということをお願いいたしまして、今日の議論はここで終わりにしたいと思います。
それでは、事務局にマイクをお返ししますので、連絡事項等がありましたらお願いいたします。
【築田観光部長】
本日は貴重な御意見を賜りまして、どうもありがとうございました。
本会議につきましては、本日が今年度最後の会議となりますので、産業労働局長より一言御挨拶をさせていただきます。
【坂本産業労働局長】
産業労働局長の坂本でございます。
今回の観光産業振興実行プラン、この改定に当たりましては、今回を含め３回にわたって様々な切り口から貴重な御意見、さらに御指導をいただいたこと、厚く御礼を申し上げたいと思います。また、限られた本当に短い時間の中で、円滑な会議運営をしていただいた本保座長には本当に改めて御礼を申し上げたいと思います。
観光に関しては、昨年来、本当にコロナが広がる中で、逆風に次ぐ逆風という中で、観光をどうしようかということを切り出すこともはばかられるような状況の連続であったと思っています。ただ、ここで我々が議論を止めてしまったり、ある意味では中長期的にどうしていったらいいのかというような視点を失ってしまったら、これからの観光の、それこそサステナブルなリカバリーというものはあり得ないであろうと。そういう中で皆さん方から本当にいろいろと英知を寄せ集めて、御意見を頂戴して、これから冊子という形で今後のプランを取りまとめると、これをしっかりとやっていきたいと思っています。
最近の新型コロナウイルスの新規陽性者の数も一時期ほどではなくて、本当に落ち着きを見せていると。だからこそ、観光をここでアクセルを踏んでいきたいというところもあるのですが、

やはり世の中的には第６波というところも懸念されますので、やはりコロナとは、これからウィズコロナというような部分が継続していく、そういう中で観光がしっかりと発展していくためにはという視点を持って進めていかないといけないのだろうなと思っています。

プランは２年間ということで、ある意味ではちょっと短期的にローリングをしていくような形なのですが、それだけ世の中の流れも速いということですので、その都度その都度、いろいろとまたタイムリーな御意見、御指摘を賜ることができればと思っております。

そういう中で、今後とも皆様方から御指導、御鞭撻を頂戴できれば幸いでございます。本当に今日はありがとうございました。引き続き何とぞよろしくお願いいたします。

【簗田観光部長】

プラン策定の今後のスケジュールにつきましては、本日、委員の皆様からいただいた御意見も踏まえまして、年内に案を公表し、その後パブリックコメントを経て、来年２月には最終版を公表したいと考えております。

事務局からは以上でございます。

【本保座長】

ありがとうございました。

【簗田観光部長】

それでは、以上をもちまして今日の会議は終了したいと思います。どうも御協力、誠にありがとうございました。